



自友感謝
主愛謝

北野

三本の柱【挨拶】【掃除】【合唱】

久留米市立北野中学校
学校だより 5-17号
令和6年1月30日
文責 校長 谷口 哲也

◇高校入試が行われています！

今月から私立高校の入試、公立高校の特色化選抜入試が行われ、生徒にとっては人生の中で大きな節目を迎え、これまでの努力の成果を精一杯発揮してくれています。

今年は、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ感染症を心配しながらの入試となり、無事、受験ができるのか心配していましたが、現在のところ大きな問題もなく進んでいるところです。

すでに、卒業後の進路を確定している生徒もいますが、今後、筑後地区私立一般入試の前期1月31日（水）・後期2月8日（木）、福岡地区私立一般入試の前期2月2日（金）・後期2月10日（土）、そして同時並行で公立高校では推薦入試が2月6日（火）、高専一般入試が2月11日（日）には行われるなど、一つの山場を迎えます。

現在、多くの生徒が気持ちを引き締め頑張っているところです。特に、3年生の保護者の皆様には、まだまだ、心落ち着かない日々が続くと思いますが、引き続き応援と見守りをよろしくお願いいたします。

◇筑後地区中体連“新人駅伝大会”が行われました！

去る1月16日（火）に大牟田市諏訪公園、園路周回コースにおいて、筑後地区中体連新人駅伝大会が行われました。新人駅伝大会ということで1年生中心のチームで出場しました。女子は2km、男子は3km～4km等を全力で走り切りました。走ってきた選手達は、中継地点やゴール地点で倒れ込むようにしていました。精一杯、力を尽くして頑張っていました。



駅伝は、チームでタスキをつなぐ団体戦です。

みんなの思いを感じながらタスキをつないで、一生懸命さがとても素敵でした。

また、選手を支えるサポートの生徒たちの動きも大変素晴らしかったと思いました。お疲れ様でした。次年度につながる大会になりました。これからも、保護者、地域の皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

【男子の部】24位 監督：倉山翔平先生

1区 (4km)	2区 (3km)	3区 (3km)	4区 (3km)	5区 (3km)	6区 (4.1km)
岡部 然②	弓削惺椰①	松尾吏久①	中島広夢①	田中大駕①	古賀蒼介①

サポート：赤司優元②・深山優成①・黒岩幸輝①・春山義弥①

【女子の部】20位 監督：中野泰雅先生

1区 (1.97km)	2区 (2km)	3区 (2km)	4区 (2km)	5区 (2km)
神代七海②	川原悠愛①	黒岩穂純①	初田 雅①	原 愛理①

サポート：富松 杏①・森田 葵①

◇全国中学生「人権作文コンテスト」 福岡県大会久留米協議会賞 受賞、おめでとうございます！

福岡法務局 福岡県人権擁護委員連合会による全国中学生人権作文コンテスト福岡県大会が行われました。今年で41回目になります。本校から多数応募があり、その中で「自分自身を見つけるには」というタイトルで、1年3組中尾陽乃さんが、久留米協議会賞を受賞されましたので紹介します。

中尾陽乃さんは、「青春ゲシュタルト崩壊」という本を選びました。その理由は、あらすじを読み同じ学生として共感できることが多いと感じたことと、この本の作者さんの他の作品を読んだことがあり、興味をもったからだそうです。

この物語を読み終えた陽乃さんは、自分自身を見つけるためにはいろいろな人の支えが必要なことを学び、これから人の心に寄り添える、支えることのできる人になりたいと考えたそうです。自分の知らない世界を知ることができ、心の旅がたくさんできる本との出会い、本当に素晴らしいと思います。



◇2023久留米市人権講演会(北野会場)が行われました！

2023年12月15日(金)久留米市北野生涯学習センター一本館(大ホール)において、久留米市人権講演会が行われ、本校から近藤渉太さん、黒岩由梨絵さん、光安佑騎さんが堂々とした司会進行で北野中学校みなさんの人権作品を発表してくれました。発表された作品は、どれも素晴らしいものでした。2つだけ紹介させていただきます。



「自分のことを一番好きになろう」

2年2組森崎心春さん

「周りの意見に流されない

思い込みだけで終わらせない

勇気ある一步を踏み出したい」

3年4組藤川綾香さん

北野中学校
3年4組
藤川綾香

周りの意見に
流されない
思い込みだけで
終わらせない
勇気ある一步を
踏み出したい

北野中学校
2年2組
森崎心春

自分のことを
一番
好きになろう

講演では、講師に松崎佳子さんをお迎えして、「知ろう 考えよう ヤングケアラー」について、詳しくわかりやすくお話していただきました。ヤングケアラーとは、例えば、子どもが本来親が担うべきいろいろな家事や親の看病や介護、兄弟姉妹の世話をしなければならない状況におかれている子どもたちのことです。小中高生の中で約18人に1人いると言われていたそうです。このことを学校に置き換えると1クラスに2人はいると考えておかなければなりません。しかも、1日に平均して4時間のお世話をしている実態があるということでした。子どもにとって、このことが当たり前になっていて、自分がヤングケアラーである自覚がないことがほとんどで、家族へのアセスメントや支援が行き届いていない問題があるそうです。お話を伺って、学校と地域、そして行政が連携して積極的な認知に努力する必要がありますと感じました。そして、児童相談所や北野総合支所、家庭子ども相談課子ども子育てサポートセンターなどと協力して対応にあたらなければならないことも感じました。

これからも保護者、地域の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。